

〔教育図書・資料紹介〕

— 情報教育関係図書の紹介 —

科学技術教育部

— 新鮮な情報を収集するために —

情報教育の一環として、学校教育でのコンピュータの本格的活用が始まり、先生方の関心も高まりつつあるところです。このような状況にあると、コンピュータ関連の新しい知識が欲しくなり、その情報を雑誌などに求めることが多いものです。しかし、店頭には数多くの雑誌が並び、初めて購読される方はどれを選べば良いのか迷ってしまいます。

その点で、隔週で発売されている「AS Ahiパソコン」（朝日新聞社）は、新鮮な情報を分かりやすい内容で提供し、その時期の話題が適切に特集記事として組まれているので、興味深く読むことができる一冊でしょう。

— コンピュータ健康障害について知ること大切 —

頭痛、関節痛、耳なり、眼精疲労、視力低下、微細外傷および反復性ストレス障害と、すべてこれらはコンピュータ関連の健康障害です。

「脱・コンピュータストレス」（アスキー出版）は、このような健康障害を社会問題としてとらえ、予防の環境作りという観点から言及しております。障害のメカニズムを知り、将来情報化社会に生きる児童生徒に伝えることは、情報教育に携わる者として必須であり責任でもあるでしょう。

ちなみに、コンピュータ操作に疲れた方、本書では次のように述べていますので、試してみてください。予防のちょっとした工夫だそうです。

- ・あくびで全身をリラックスさせる。
- ・手のシェイク体操で腕の血行をよくする。
- ・こまめな運動で筋肉のこわばりを取る。

効果のほどはいかがでしょうか。

— 自作ソフト志向の方に —

BASIC言語のリファレンス・マニュアルは、分厚くとっつき難いものです。

その点で、「PC-9801シリーズBASIC用語・用例辞典」（成美出版）は、命令や関数が機能別に配列され、すべてにミニサンプルプログラムが掲載されています。これらサンプルは、入力が簡単で実用性の高いものであり、BASICがもつ機能を容易に理解できるよう工夫されています。自作ソフトを志向している方には、良い手引き書になると思います。

また、大きさが文庫本サイズなのでどこへでも持参できます。ちょっとした待ち時間に、ポケットから引っ張り出す「暇つぶし本」としても利用できるでしょう。